

『新型コロナウイルス感染症が青少年の健全育成に及ぼす影響の回避について』

緊急メッセージ

(公社)京都府青少年育成協会は、府内の青少年育成市町村民会議等と相互に連携し、感染拡大の防止と青少年の健全育成活動との両立を図ります。

新型コロナウイルスの感染が世界中に広がり、WHOが世界的な感染拡大＝パンデミックを宣言し、日本政府はこれを受けて第二次世界大戦後初となる緊急事態宣言を発出され、あらゆる社会活動が自粛要請により制限された状況が続きました。

教育の現場においても、感染拡大の懸念から昨年度末より学校を休業とする対応をしてこられました。緊急事態宣言が解除され、ウィズコロナの体制をとりながらも、学校が再開されたことは喜ばしいことであり、調整にあられた関係機関のご努力に敬意を表するところです。

しかしながら、長引いた学校休業や外出の自粛は、学習機会や学校行事等とともに、人や社会との交流機会を失った子どもたちにとって、計り知れない影響を与えたこともまた事実です。

京都府青少年育成協会は、府内の青少年育成市町村民会議等に対し、新型コロナウイルス感染症対策に伴う青少年(児童生徒等)への影響や市町村民会議等の活動の現状等について、

- 1 学校休業開始以降、子どもたちの生活に生じた特徴的な変化
- 2 学校再開後の児童生徒の顕著な変化等
- 3 今年度の地域等で計画している取組の実施状況等
- 4 新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった事業等を今後再開する場合の課題等
- 5 今後、取り組んでいきたい事業や取り組んで欲しい事業等
- 6 その他

の6項目の緊急アンケートを実施しました。

回答の特徴としては、子どもたちは、新型コロナウイルス感染症への予防対策としての学校休業等で、生活リズムが乱れ、学習意欲の低下とともに、外出自粛の中で、インターネットやスマホ、テレビを見る時間が増加するなど大きな影響を受けている様子が伺えました。また、学校再開後も、長期休業により、精神的・体力的に疲労が見られるとともに、長期休業によりコミュニケーションが取りにくく、集団生活になじみにくい状況や、修学旅行等学校行事の中止で学校生活へのモチベーションの低下が見られる等の回答がありました。

青少年育成市町村民会議等に関しては、新型コロナウイルス感染症への対応には未知のことが多い中で、事業の実施等を模索しながらも、万が一、参加者等に感染者が出た時を危惧され、躊躇されている様子が伺えました。

青少年の健全育成という私たちの活動は、子育て環境日本一を目指し、子どもの健やかな成長を社会全体で支える京都府の実現に向けて大きな役目を負っているものと考えており、将来を担う世代の育成を止めるわけにはいきません。私たちにできることは限られておりますが、青少年の健全育成のために協力を惜しまない体制を整え、子どもたちと笑顔で交流できる日を待ち望んでおります。

そのためには、一刻も早く、子どもたちが安心して学習できる環境づくりを最優先に、遅れた学習機会の補完を充実させることや、各学校や教育関係団体はもとより、家庭・地域社会も含めた社会全体として協力・対応できる体制づくり、子どもたちが受けた影響等を共有できる環境づくりが必要不可欠です。

京都府青少年育成協会は、青少年育成市町村民会議等の皆さんと想いを一つにして、子どもたちの「命」を守るため、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を最大限に心がけるとともに、ウィズコロナ社会における青少年の健全育成に関する啓発活動や見守り活動はもとより、子どもたちの心を豊かに育む社会体験の機会を提供するため、行政や青少年育成市町村民会議等と連携・協働し、多様なプログラムを創造し、実施に努めますので、私たちの行動を支援していただきますようお願い申し上げます。

令和2年9月4日

京都府知事 西脇隆俊 様

公益社団法人
京都府青少年育成協会
会長 上田 静 男